

令和6年度第1回埼玉県バーチャルユースセンター

運営検討会議 次第

日時 令和6年6月13日(木)
14:00～15:00
会場 埼玉県衛生会館
531会議室

1 開会

2 挨拶

3 委員自己紹介

4 議事

(1) バーチャルユースセンター事業について

(2) 運営検討会議スケジュールについて

(3) 埼玉県バーチャルユースセンター運営の基本的な方向性
(案) について

5 閉会

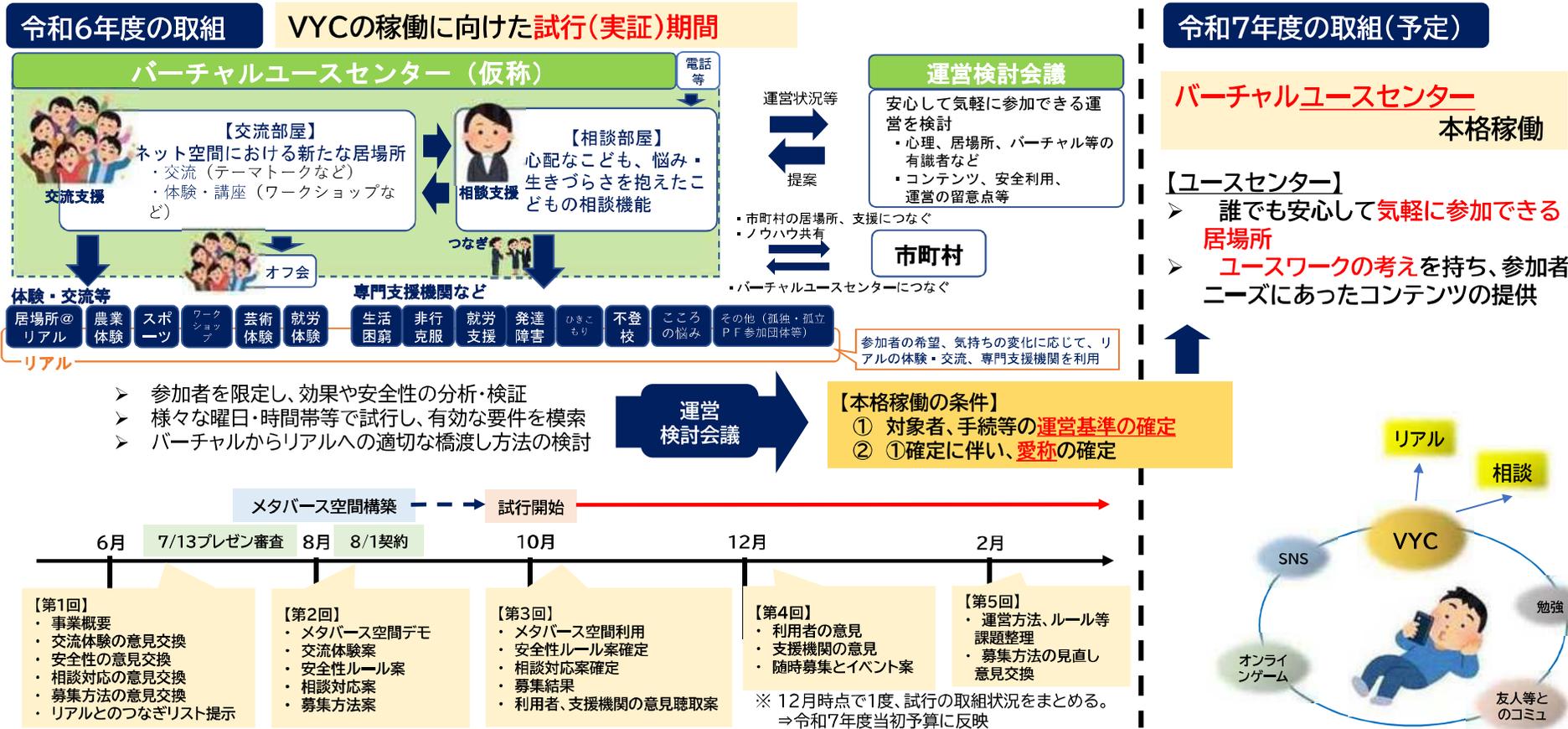
◆ 埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議委員名簿

氏名	備考
青山 鉄兵	文教大学・准教授
さいたまん吉	埼玉県広報アンバサダー
篠谷 瞳	さいたま市総合教育相談室主席指導主事
東海林 智之	上尾市子ども家庭総合支援センター主査
堀田 香織	埼玉大学・教授
綿貫 能理子	毛呂山町福祉課副課長

* アイウエオ順

令和6年度埼玉県バーチャルユースセンターについて

メタバース空間に、小学生から大学生程度までの子ども、若者が**安心して気軽に参加**でき、交流、体験、相談等の機能を備えた新たな**居場所**



令和6年度バーチャルユースセンター・企画提案競技について

1 仕様書概要

- **バーチャルユースセンターの企画・運営**
交流、体験、オフ会等のイベント、相談(相談部屋)、相談(相談部屋以外)について、企画・運営をすること。
- **参加対象者**
試験運用中の参加対象者は、県内在住・在学・在勤の小学生から大学生程度の年齢の子どもや若者のうち、専門の支援機関を利用している者を中心に募集する。
また、参加に当たっては、事前に氏名、年齢や連絡先など最低限必要な情報を登録することとする。募集の時期及び方法等の詳細は、協議の上、決定する。
- **開設時間等**
交流、体験、相談(相談部屋)については、体験、交流を中心として合計で週2日、1週間に8時間以上の開設を原則とする。
相談部屋を使用しないメール、SNS等での相談については、相談受付から3日以内に対応すること。
いずれも、曜日及び時間帯は協議の上、決定する。なお、利用者のニーズを把握するため、土日祝日及び深夜帯を含め、曜日や時間帯の一時的な変更を協議する予定。
- **その他**
参加者の募集、事業ホームページの作成、公開及び広報等のイベントを実施すること。
- **実施体制**
業務責任者のほか、運営スタッフ、相談スタッフを配置すること。
運営スタッフは参加者6～7人に1人を配置する。
相談スタッフは専門資格を有する若しくは専門知識と実務経験を有する者とする。

2 企画提案 評価項目

区分	審査項目	配点
事業目的、事業内容	① 事業目的の理解度 <input type="checkbox"/> メタバースを活用し、小学生から大学生程度までの子ども、若者が安心して気軽に参加でき、交流、体験、相談等の機能を備えた居場所として設置するという目的について十分に理解しているか。 <input type="checkbox"/> 子ども・若者の意見反映やユースワークの考え方を理解しているか。	15
	② 交流・体験事業の内容 <input type="checkbox"/> 提案書の構成に工夫があり、実施方針が明確に示され、全体として意欲が感じられるか。 <input type="checkbox"/> 企画の独自性、事業実施上の専門性があるか。	15
	③ 相談(メタバース空間を使用しない相談を含む)の内容 <input type="checkbox"/> 提案されている実施方法が現実的であり、十分に実施可能なものであるか。 <input type="checkbox"/> 企画の独自性、事業実施上の専門性があるか。	15
	④ リアルの体験・交流、支援機関や市町村等の外部との連携 <input type="checkbox"/> 企画の独自性、事業実施上の専門性があるか。	5
	⑤ 効果的な募集・広報 <input type="checkbox"/> SNSや有料広告等を利用した効果的な広報方法の提案があるか。	5
業務の実施体制・実施計画	① 実施体制 <input type="checkbox"/> 業務が円滑に進むよう必要十分な担当者を配置しているか。 <input type="checkbox"/> ユースワークを行うための知識・経験を有するスタッフを配置しているか。 <input type="checkbox"/> 相談対応に係る資格・知識を有する等の専門スタッフの配置しているか。	15
	② スケジュールの妥当性 <input type="checkbox"/> 事業目的達成に向けた計画となっており、そのスケジュールは現実的で妥当か。	10
	③ 危機管理体制 <input type="checkbox"/> 危機に備えて適切な管理・運営体制を構築しているか。 <input type="checkbox"/> 個人情報適切に管理されているか。	5
受注実績等	① 業務の受注実績及び費用 <input type="checkbox"/> 行政機関から同種・類似業務の委託を受けた実績があるか。 <input type="checkbox"/> 事業を実施するために必要な財務的基礎を有しているか。 <input type="checkbox"/> 事業に必要な経費の見積にあたって、妥当な積算方法で費用対効果に優れているか。	10
追加提案	① 追加提案 <input type="checkbox"/> 追加提案は本事業を実施する上で効果的な内容か。	5

埼玉県バーチャルユースセンター運営の基本的な方向性(案)

項目	方向性	課題
目的 対象	<ul style="list-style-type: none"> 小学生から大学生程度までの子ども・若者が安心して気軽に参加でき、交流、体験、相談等の機能を備えた居場所を作る。 	
募集 方法	<ul style="list-style-type: none"> ①困難を抱えている子ども・若者を中心に、利用者を募集 (例)不登校児童生徒の利用者を市町の教育支援センターやフリースクールなどを通じて募集 ②困難を抱えていない子ども・若者にも、利用者を募集 (例)試行期間においては、まずモデル地域の小・中学校、高校などを通じて募集 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な募集対象、手法がないか。
交流 体験	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・若者が主体的に活動に参加する「ユースワーク」の考え方を取り入れる。 試行期間においては、様々な曜日、時間帯で実施し、利用しやすい運営方法を検討する。 必要に応じて本人の希望を踏まえて、市のリアルなユースセンターなどにつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な交流、体験とはどのようなものか。
相談	<ul style="list-style-type: none"> ①バーチャルユースセンターにおいて気軽に相談できるようにする。 ②必要に応じて本人の希望を踏まえて、専門の支援機関につなぐ。 	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> 試行期間においては、まず利用者登録を行ってもらい、登録者のみ利用可能 交流・体験部屋では、個別でのチャット、音声でのやりとりは禁止 利用者6～7人に対して一人のスタッフを配置 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを厳しくするほど安全性が高まるが、利用者の自由度は制限される。両立にはどうすべきか。